

横浜キネマ倶楽部  
第40号 会報  
2015年8月15日発行

第40回上映会

大林宣彦監督作品

# 野のなななのか

(2014年／日本／171分／ブルーレイ上映)



©2014 芦別映画製作委員会／PSC

2015年8月15日(土)  
[上映時間] 12:00～  
[会場] 神奈川公会堂

ロビー交流会  
15:15～15:45

# 『野のなななのか』

## [物語]

雪の北海道芦別市、現代。風変わりな古物商《星降る文化堂》を営む元病院長、鈴木光男(品川徹)が92歳で他界した。散り散りに暮らしていた鈴木家の面々が葬式のために古里・芦別に戻ってくる。そんな中、謎の女・清水信子(常盤貴子)が現れる。「まだ、間に合いましたか——?」。不意に現れては消える信子により、次第に光男の過去が焙り出される。1945年8月15日以降も戦争が続いていた樺太で、旧ソ連軍の侵攻を体験した光男に何が起きたのか?そこには信子が持っていた一冊の詩集を買い求めたひとりの少女・綾野(安達祐実)の姿もあった。果たして信子と綾野の関係は? 明らかになる清水信子の正体とは? 生と死の境界線が曖昧な“なななのか(四十九日)”の期間に生者も死者も彷徨い人となり、やがて家族や古里がつながっていることを学び、未来を生きようと決意する。

(出典:映画チラシ)



©2014 芦別映画製作委員会/PSC

## [物語を彩ったひとびと]

鈴木光男・・・品川 徹  
清水信子・・・常盤貴子  
鈴木冬樹・・・村田雄浩  
鈴木春彦・・・松重 豊  
鈴木節子・・・柴山智加  
鈴木かさね・・・山崎紘菜  
鈴木秋人・・・窪塚俊介  
鈴木カンナ・・・寺島 咲  
田中英子・・・左 時枝

## [映画を拵えた人びと]

企画/製作・・・芦別映画製作委員会  
株式会社PSC  
エグゼクティブ・プロデューサー  
・・・大林恭子  
プロデューサー・山崎輝道  
原作・・・長谷川孝治「なななのか」  
脚色・・・内藤忠司  
大林宣彦  
脚本/撮影台本・・・大林宣彦  
撮影監督・・・三本木久城  
美術監督・・・竹内公一 (A. P. D. J)  
録音・・・内田 誠  
編集・・・大林宣彦  
・・・三本木久城

## ☆ 大林宣彦 監督 プロフィール

1938年、広島県尾道市出身。3歳の時に自宅の納戸で出合った活動写真機で映画製作を始める。16mmフィルムの自主製作映画『EMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』(67)が美術界で高い評価を得る。『喰べた人』(63)はベルギー国際実験映画祭で審査員特別賞受賞。日本のTVCM草創期に関わり作品数は2000本を超える。1977年、『HOUSE/ハウス』で商業映画に進出。古里で撮影された『転校生』(82)『時をかける少女』(83)『さびしんぼう』(85)は“尾道三部作”と称され親しまれている。東日本大震災を受けた『この空の花—長岡花火物語』(11)ではTAMA映画賞・最優秀作品賞ほか多くの賞を受賞。2004年春の紫綬褒章受章、2009年秋の旭日小綬章受章。  
『野のなななのか』パンフレットより

# ..... アンケート集計結果 .....

＜ 2015. 5. 30 第39回上映会 ＞

## 『救いたい』

来場者数 148名  
アンケート総数 53枚(回答率35.8%)

### ＜作品についての評価・感想＞

「とても良かった」37枚 69.8%

- 3・11の震災がその土地に住んでいる人の運命を変えていってしまう。外には表れない気持や、悲しみ、etcを感じました。又お祭りでおお勢の人が一つになっていく本当に感動です。それぞれの道を進む夫婦・家族のお互いを気づかう愛。変わらないでほしいです。
- 万難を排して参加して良かったです。とても感動しましたが、参加者が少なくとても残念でした。大震災のこともまた新たな思いをいたし、忘れてはならないと思いました。
- 東日本大震災のなまなましい映像がでてきて、4年前の報道のことが思い出された。大切な人たちを失った人たちが、それぞれの思いで必死に生きていることが、この映画を通して分かった。この映画の人々に寄りそう医師の姿に励まされました。
- 時の風化はおそろしいものがあります。しかしこうして映画を通して、廻りは何が出来るかを考えさせられる映画の良さを痛感します。
- 淡々と繰り返される日常の中にも様々な思いが有り、その気持ちから他人を思いやる気持ち。何か誰かの力になりたいという思いが復興の原動力になっていると思います。それを実感させられた良い機会となりました。
- 被災地の映像を胸を痛めながら観ていて、胸がつぶれそうに思ったりしていましたが、今日の映画で私も救われました。人の温かさのいっぱい感じられる。。。ステキでした。生きていくことにしんどさ感じるこの頃希望がもて感謝です。
- 素敵な作品で感激しました。ありがとうございました。

- 題「救いたい」がよくないので期待していなかったけれど、映画は一級でした。まず、一本通ったコンセプトがある。統一した時間の支配がある。そして説教がない。これは本物の映画です。
- 将来医師になってみたいと思いました。
- 映画を通してどんな形でも生きるという事の希望と勇気というものが伝わってきました。忘れさられようとしている経った数年前の東日本大震災。忘れてはいけない。政府の援助は続くべきだと思いました。生きることを忘れない。
- 最近、主人を亡くしたが、震災にあった人達のなくし方はあまりにも非情だと思った。でもゆっくり雪が解けるように元気になっていく姿を、私、見習って暮らしていきたい。

「良かった」13枚 24.5%

- 過去3回手術を受けたが、そのたびに麻酔科の先生にもお世話になったことを知れて良かった。奥さんへの最高の褒め言葉すてきだった。
- 藤村志保と中越典子の語り合う場面(特にカメラのゆっくりとした動き)がよかったです。
- それが他人であっても大事な人が亡くなる姿を見るのは辛い。その点、ヤクザ弱すぎ。看護師の娘に腸閉塞の説明は不自然。津川も不自然。
- 3・11後医療の問題、震災のケア、その後の人々の生活等、様々な問題を含んだ作品でした。

「普通」2枚 3.8%

「無印」1枚 1.8%

## 〈神山監督講演についての感想〉

- 楽しいお話でした。
- 昔の映画人口 15 億にびっくりしました。いろいろな話聞けて良かったです。”救いたい”をつくった気持ちをお聞きしたかった。想像はできますが。
- とても良かったに印をつけたが b につけた。ワケは裏に記載。しかしよくわからないと思います。発言したいと思っています。(裏)映画『救いたい』、内容よさそう。しかし考えた。国際興業関係者が主演？わかりますか神山さん。今のアベの祖父岸等に関係あるからで小佐野です。→角栄→今の政権(クスノキ)いつまでも変わらないな。
- とても親しみを感じました。私も岐阜県不破郡の出身で見近かに感じました。
- この映画を作成するにあたっての苦労話とか裏話のような講演かと思ったらとりとめのないお話でしたが、聞いてるうちに思わず笑ってしまいました。何故か席を立てずに引き込まれました。監督の人間性でしょうか。よかったです。
- 楽しく聴くことが出来ました。
- 映画監督の仕事を分かりやすく話されたのが、印象的でした。人間観察がすごいです。国会中継での安倍首相の人間性が直にでていた話に納得です。
- 人柄の暖かさ、弱いものの気持ちのわかるお話で好感度↑。現在の社会なんとなく薄情な・・・と書いていましたが納得。生きる力に・・・。有難うございました。
- 途中からで残念だった。話し方にユーモアがあった。
- 途中から聞きましたが、大変面白い講演でした。
- 神山監督の人柄を知れて良かったと思います。

☆ アンケートご協力ありがとうございます ☆

## 〈これまでの上映作品〉全43回 (特別上映会4回含む)

美しい夏キリシマ/パッチギ!/カーテンコール/二人日和/ゆれる/トリノ、24時からの恋人たち/  
長い散歩/天空の草原のナンサ/イノセント・ボイス—12歳の戦場—/モーターサイクル・ダイアリーズ/  
恋するトマト/シッコ/歓喜の歌/赤い風船・白い馬/三本木農業高校、馬術部/ラストゲーム～最後の早慶戦/  
マリア・カラスの真実/ディア・ドクター/扉をたたく人/縞模様のパジャマの少年/春との旅/  
小さな村の小さなダンサー/冬の小鳥/ホームカミング/ミツバチの羽音と地球の回転/デザートフラワー/  
ハーモニー心をつなぐ歌/ドバーばあ織姫たちの挑戦/エンディングノート/旅芸人の記録/トガニ/  
月世界旅行・メリエスの素晴らしき映画魔術/かぞくのくに/警察日記/名もなく貧しく美しく/よみがえりのレシピ/  
きっと、うまくいく/日本の悲劇/ペコロスの母に会いに行く/息子/ハンナ・アーレント/標的の村/救いたい

<<< 前売り券購入方法についてのお知らせ >>>

### **【ゆうちょ振込による前売り購入】**

各上映会3日前まで、ゆうちょ口座にて前売りを受付いたします。  
前売り料金(1,000円)を以下の口座へご入金ください。  
チケットは、当日受付にてお渡しいたします。

**ゆうちょ銀行総合口座 記号 10200 番号 22932931**  
**加入者名:ヨコハマキネマクラブ**

### **【プレイガイドによる前売り購入】**

〈前売り券取り扱い所〉

有隣堂伊勢佐木町本店 TEL 045-261-1231

高橋書店（元町） TEL 045-664-7371

シネマジック&ベティ TEL 045-243-9800

横浜シネマリン TEL 045-341-3180

いづみ書房 TEL 045-241-1104

### **【チケットぴあによる前売り購入】**

Pコードについてはチラシ、ホームページにてお知らせします。

「セブン-イレブン」「サークルK・サンクス」でチケットの発券ができます。

上映会会場で、次回上映会のチケットを販売する予定です！

また、運営委員がチケットの販売をしていますので、よろしくお願ひします。

前売り券購入方法について、ご質問、提案等ありましたら、お気軽に申し付けください。

## 次回上映会のお知らせ

日時：2015年11月3日（火・祝）

上映時間 ①11:00～  
②14:00～

### 〔入場料〕

前売り 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円（介護者1名無料）

〔会場〕横浜市西公会堂 045-314-7733

（横浜駅徒歩10分、相鉄線平沼駅徒歩8分、  
岡野町バス停徒歩5分）



©2013「ぼくたちの家族」製作委員会

## 上映作品『ぼくたちの家族』

監督・脚本：石井裕也 出演：妻夫木聡 / 原田美枝子 / 池松壮亮 / 長塚京三

2014年 / 日本 / カラー / 117分 / ブルーレイ上映

## 突然告げられたお母さんの余命。そして今、ぼくたちは動き出す—。

『川の底からこんにちは』でブルーリボン賞監督賞を歴代最年少で受賞、さらに2013年、『舟を編む』で第86回米国アカデミー賞®外国語映画賞部門日本代表作品に選ばれるという快挙を成し遂げ、同作は日本の映画賞を総なめにした。今や世界から注目される存在となった石井裕也監督が満を持して選んだテーマ、それは自身が描き続けてきた〈家族〉。だが、私たちはオープニングか

らほんの数分で気付く——今まで観てきたどの〈家族映画〉とも、全く違うということに。監督が「本気で家族というものに向き合いたかった」と、家族がもつ〈業〉に全力でぶつかった渾身の一作。これまで描かれることのなかった、けれど誰もが知っている真の家族の姿がここにある。

### 〔事務局より〕

#### 《東北に映画を届けよう！募金のお願い》

東日本地震の被災者、とりわけ子どもたちに、移動上映会で映画を届けるための募金をお願いしています。ロビーにカンパ箱を設けましたので、ご協力お願いいたします。皆様からお預かりしたカンパは、コミュニティシネマセンターを通じて、被災地の事務局に届けられます。（2014年度募金総額は18,032円でした。ありがとうございます。）

### 横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。

会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一歩でも近づきたい、それと同時に、良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部



〒231-0012 横浜市中区相生町1の15  
第2東商ビル4階-C 労働市民法律事務所 気付  
TEL:080-8118-8502 (10時~18時)  
Eメール:yokohama\_kinemaclub@yahoo.co.jp  
HPアドレス:http://ykc.jimdo.com